

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104514
法人名	医療法人 慈孝会
事業所名	グループホームふくずみ
所在地	松山市福角町甲616-1
自己評価作成日	平成28年5月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔のある生活」という理念の基、日々お世話をさせていただいています。ホームは静かな住宅地で田園に囲まれ、併設のデイサービスとは、廊下を経てつながっており、行き来が自由に開放感がある作りになっています。趣味や行事などデイサービス利用者様と一緒に活動することが出来ます。中庭や玄関には季節の花や野菜を作って楽しんでいます。利用者さん・家族さんと夢プランを作成し、実施しています。散歩やドライブ、買い物なども出来る限り取れています。日々、お一人お一人に安心して楽しく暮らしていただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●今年度から、実現可能な利用者・家族の要望を「家族と本人のつながりを大切にしたい（夢プラン）」と称し、計画・実施している。1回目は、重度の利用者の要望を採り入れて「自宅に帰る」夢を支援した。当日は、家族や親戚が集まり食事したり、写真を撮ったり、親戚の家まで行く等、職員が同行して支援した。利用者・家族は喜び、職員は感激したようだ。 ●年2回は、利用者全員で花見等に出かけている。天気や利用者の体調をみながら希望を聞き、個別にドライブ、買い物、散歩等に出かけられるよう支援している。重度の利用者については、家族に相談して調子の良い日に、刻み食の弁当を持って、海岸や道の駅に出かけた事例がある。 ●利用者のできること、したいことを探りながら支援に取り組んでいる。洗濯物干しを日課にしている利用者には、一緒に天気予報を確認している。又、自分で洋服を選び更衣できるよう支援したり、自分で髪を結う方には、職員がそっと手伝っている。職員は、利用者の趣味の話題等でコミュニケーションを図りながら支援を行っている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい の 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい と 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい が 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらい が 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい が 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホームふくずみ

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

田淵 文

評価完了日

H28 年 5月 19 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 地域密着を踏まえた理念としており、ミーティングや会議等 に全員で復唱し、共有・実践に繋げている。年間で基本理 念計画書を作成し、3か月に1回評価を行っている。問題が あったとき理念に立ち返ることで方向性が見え、解決に繋 がっている。	
			(外部評価) 職員で「自分たちが利用者にできることは何か」を話し合い、 「笑顔のある生活」という理念をつくっており、玄関や居間の 見やすい場所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 運営推進会議などに地域の人に参加していただいている。 地域の祭りなどにも参加している。また消防訓練時には近所 の方にも参加協力を呼びかけている。日常的には買い物・ 散歩・ドライブ等により交流に努めてるが、まだまだ少ないと 思う。 年に一回地域交流会を実施しておりH27年度は地域の方も 多数参加して頂いた	
			(外部評価) 昨年9月の松山市総合防災訓練には職員が参加した。地域 の夏まつりには、「からあげ屋台」を出して協力している。利 用者と職員は、散歩途中に地域の方と挨拶したりおしゃべり して関係を作っている。地域ボランティアを受け入れたり、保 育所の園児が来て太鼓演奏を見せてくれる機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会など地域の人々の参加があり、認知 症の人の支援の方法や理解をしていただけるよう働きかけて いる。年間目標にも掲げ事業所として認知症の人の理解に ついて発信できるよう努めていきたい	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			各利用者の状況や行事・レクリエーション、防災訓練、ヒヤリ ハット、事故防止対策、外部評価の取り組み報告等行い、意 見を頂きサービス向上に活かしている。	
			(外部評価)	
			併設小規模多機能事業所と合同で会議を行っており、利用 者・家族・民生委員・市の担当者等の参加がある。事業所か らは、活動や利用者の状況報告を行っている。実地指導や 外部評価、サービス満足度調査の結果等も報告して参加者 の意見を聞いている。	会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス 向上に活かし、その状況や結果等についても報告してはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価)	
			運営推進会議などのアドバイスを受けている	
			(外部評価)	
			短大生の介護実習を受け入れている。事業所で行う地域交 流会の折には、地域包括支援センターの方の協力を得て 「いつまでも元気であるために」と題した講演会を行った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を掲示 している。普段は玄関を開放しているが、精神状況に応じて 必要と判断した場合一時的に施錠をしている。研修やミー ティングなどにも参加し理解を深め職員全員で取り組んでい る。	
			(外部評価)	
			「身体拘束ゼロ」への取り組みについて法人全体で話し合 い、取り組みをすすめている。転倒の心配がある利用者には、 夜間のみベッドを低くして、足元にマットを敷き対応して いる。ひとりで出かけようとする利用者には、職員が同行する が、気付かないうちに出かけていたような例がある利用者には、 スリッパに鈴を付け対処している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、勉強会を行っている。高齢者虐待防止法を掲示し、常に意識してケアにあたり、防止に努めている。虐待が見過ごされないよう職員間で日ごろから話し合ったり、点検している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度を理解し、ケースに応じて利用していく。研修報告会に参加し資料に基づいて学んだ。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前から見学や説明等随時行い、契約時にも十分説明し、理解、納得していただき、快適に安心して生活していただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関前に意見箱を設置している。年に1～2回家族会を持っている。また月々の支払い時や面会時などにも意見や要望を言っていただけるよう配慮している。話しやすい雰囲気を作りなんでも話して頂けるよう信頼関係を作れるよう努めていく (外部評価) 家族来訪時には、事業所全体の活動を報告したり、当日の利用者の過ごし方を話しながら日常の様子についても報告している。家族会では、ケーキ等を食べながらおしゃべりしたり、「認知症」についての学習会等も行った。バーベキューを行った際には、食事介助の様子を見た家族から、「日頃の様子がよくわかった」と感想があった。時には、畑や花壇の手入れを手伝ってくれる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			日常のケアの中で提案や疑問、意見などを率直に話し合いながら行っており、月に1度のミーティングや運営委員会で更に意見が反映されるよう努めている。また個人面談を実施し、職員同士の関係性やストレスなど適宜行っている	
			(外部評価)	
			ミーティング内容は記録して、確認した職員はサインをする仕組みを作っている。職員は、法人役員やホーム長と面談する機会があり、直接意見を伝えることができる。言葉遣いや支援方法等について職員同士で気になる点があれば、その都度話し合う場を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			面談を実施し意見や要望を聞き意思の疎通を図っている。代表者等が昼食を一緒にとることで現場の状況把握をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			グループホームの目標として年に1回は外部研修に必ず参加することをあげている。より質の高いケアに努め、職員一人一人の持ち味を引き出して活かせるよう努めている。実践者研修など随時参加してもらえるようにしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			法人内の勉強会を積極的に行っており、交流も図っている。相互間の訪問を行うことで、部署間の働きも理解し合い、より良い連携を築けるよう努めている。行き詰った時など見学や相談などさせてもらっている	
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人や家族からの聞き取り、医師や関係スタッフからの情報提供・意見書・看護介護要約等からの情報の把握に努め、本人をよく知り今までの生活を出来るだけ維持する事で安心して暮らして頂けるよう努めている。一週間以内でプランを立て統一したケアをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前から見学してもらい、情報交換し合う。入居後 は本人が安心して暮せるよう出来るだけ来所して頂き、安心 して頂けるよう関係作りに努めている。随時不安や、要望を 聞き家族にも安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 本人や家族、関係機関のの声を聴き診療情報提供・看護介 護要約・意見書等から必要な支援を見極めるよう努めてい る。必要に応じ他のサービスについても説明・案内をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) これまでの人生で培ってきた経験や知識などを教えていた だいたり、出来る限りできることを提供し、共に楽しみ暮らせ るよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) できる限り家族との交流が持てるよう、声かけや状況報告を し、面会・行事等と一緒に参加してもらえよう呼びかけてい る。また家族での外出や外食などにもしていただいている。 H28年より夢プランを実施出来るよう計画実施に努めている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 馴染みのある人や物などを知る。ご家族に協力を得、使わ れていたタンス・写真・小物などを部屋に、持ってきていただ いたり馴染みの方に連絡や面会に来ていただいたりしてい る。また懐かしい場所などをお聴きし、ドライブなどに出かけ たりしている。 (外部評価) 今年度から、実現可能な利用者・家族の要望を「家族と本人 のつながりを大切にしたい{夢プラン}」と称し、計画・実施して いる。1回目は、重度の利用者の要望を採り入れて「自宅に 帰る」夢を支援した。当日は、家族や親戚が集まり食事したり 、写真を撮ったり、親戚の家まで行く等、職員が同行して支 援した。利用者・家族は喜び、職員は感激したようだ。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々に応じたライフスタイルを尊重しながら、行事や外出時には共に暮す仲間として関係性や席などを配慮し関わりを深めれるよう努めている。普段の日でも挨拶やちょっとした会話がが増えてきているように思われる。更に和が保てる関係作りに努めていく。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、本人を訪問したり、関係者に情報をもたらしたりして経過をフォローできるように努めている。一時的な入院後の相談や施設等の連絡調整にも応じており、関係を継続していけるよう支援している。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のケアの中で、言動や表情の中から、その真意を図り、確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族にも情報を得るようにしている。更に、一人一人の意見を反映できるように表情やしぐさなど汲み取るように努めている。 (外部評価) 入居直後には、「入居者情報共有シート」にて、利用者の現況についての情報を整理している。定期的に利用者満足度調査、嗜好調査を行い、利用者、家族の意向を知ることに取り組んでいる。夢プランに挙げる目標については、利用者に聞き取ったり、家族来訪時に相談している。	本人の暮らし方への思いを整理し、チームで共有化するための記録に工夫し、情報を支援に活かしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 部屋になじみのタンスや椅子などを持ってきていただき、家で生活していた環境と同じように安心して生活できるように努めている。また、家族の写真や手紙など部屋に飾ることにより、安定した生活を図っている。本人や家族、医師(情報提供・意見書・看護介護要約等)からの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できるできないことを把握し経過の把握に努める。センター方式など利用し残存機能を生かしていく	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			3ヶ月ごとのカンファレンス、3～6ヶ月ごとのモニタリング、変化があるときの見直しを行っている。本人家族、主治医、職員の意見や情報を取り入れるように努めている。職員全員での話し合い・介護計画の作成を行っている。毎日の終礼時にも変わったことなどあれば話し合いを行っている	
			(外部評価)	
			介護計画の実践状況は、経過記録に記入している。利用者の状態変化があれば、その都度計画を見直し、月に1回モニタリングを行い、3ヶ月毎の計画見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護計画に基づいた日々の個別記録に努めている。情報共有の徹底のため重要事項は伝達簿も活用している。これらを介護計画の見直や実践に活かしている。見てわかりやすい記録を書くために、書式・書き方など検討中である	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			買い物、外出、ドライブ、散歩、デイサービス合同レク等一人一人のニーズに応えられる多機能化に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			小学校や保育園との交流、地域の店や自然・行事等楽しむことで協力を図っている。(神社・教会・浜辺・夏祭り・花火・いのこ・秋祭り・スーパー・個人の店等)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望・要望を重視し、必要に応じた病院の受診に努めている。協力医療機関として福角病院、光洋台歯科(必要時往診又は受診)があり、月2回の訪問診療と必要時、受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 協力医の往診や、かかりつけ医の受診を職員、家族が支援している。下剤服用中の利用者にはバナナや乳製品、水分を多めに取りよう支援し、徐々に自然排便できるように取り組んでいる。眠剤服用中の利用者には、レクリエーションへの参加を促す等して一日の過ごし方を工夫している。どうしても眠れない場合は、気分がリラックスできるようにホットミルクを飲みながらお話をする等して、出来るだけ薬に頼らない支援に取り組んでいる。主治医には、利用者の様子を報告し、薬剤の必要性等について検討している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。24時間体制で小規模多機能施設内の看護職員と連絡を取れるようにしており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院された際には、情報提供を行い、入院後は病状を把握できるよう面会や連絡をとるようにしている。早期退院に向けて、主治医、病院関係者と密に情報交換し、家族との調整も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末に対する見取りの指針を定め、事業所が対応しえる最大のケアに努めている。本人・家族の希望を重視し、主治医と密に連絡を取りながら方針を共有し事業所でできることを行っている。	
			(外部評価) 昨年、法人全体で看取り指針を作成しており、入居契約時や利用者の状態変化の都度、利用者・家族に希望を聞き取っている。水分が取れなくなった利用者について、家族・医師・職員で話し合い、「できる限り事業所で生活し、最後は病院に入院する」ことを決めた事例がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故に備えて救急法やAEDの講習を受けている。心肺蘇生法のポスターを目に付きやすいところに掲示して復習している。いつでもすぐに行えるよう訓練や講習時だけでなく勉強会や日々の生活の中で備えていきたい	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を消防署より来て頂き年に2回実施している。利用者・家族・職員・運営推進会議の地域の方に参加を呼びかけ参加していただいている。また運営推進会議などのときに防災について話し合いをし、環境面・協力体制など連携を図っている。地震マニュアルも作成した。備蓄においても事業所全体で考えていきたい (外部評価) 運営推進会議と併せて防災訓練を行った際には、参加者から「地域住民も災害時の連絡・協力体制に加えてはどうか」等の提案があり、現在、検討中である。町内会からは、隣の公民館に設置されている、町内放送の非常時使用を許可されている。又、事業所は、福祉避難所受け入れ場所になっている。	ホーム長は、今年度防災士の資格研修を受講予定であり、今後は、地域の防災士と連絡を取り合い、地域との協力体制を作っていきたいと考えている。利用者や職員の安全安心に向けた取り組みをすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報保護、プライバシーの保護について、方針を掲示し、常に意識できるようにしている。十分な説明を行い、同意書を頂いている」。丁寧な言葉かけをし、職員同士の会話においても十分注意している。 (外部評価) 利用者のできること、したいことを探りながら支援に取り組んでいる。洗濯物干しを日課にしている利用者には、一緒に天気予報を確認している。又、自分で洋服を選び更衣できるよう支援したり、自分で髪を結う方には、職員がそっと手伝っている。職員は、利用者の趣味の話題等でコミュニケーションを図りながら支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけし、あせらさないで、本音をできるだけ言えるよう配慮している。意思表示が困難な方には表情や個人を知ることできみ取れるよう努めている。日常、些細なことでも本人が決めるようにしている。(食べ物・衣類・居場所)利用者さんの満足度調査・嗜好調査などを行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 今までの生活習慣や一人一人の体調に配慮しながら、その 日その時の本人の気持ちを重視し、他者との関係や、全体 の状況を踏まえた上でできるだけ柔軟に対応してる。一人ひ とりの個性やペースを大切に支援を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) その人の好みや似合うものを選び、身だしなみや、おしゃれ に無関心にならないように、手洗い時、起床時や入浴後など 鏡も利用して、身だしなみ、おしゃれを楽しんでいただい ている。カットや、爪きり等にも配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫したり、買い物に行ったり、準備や片付けも一緒 に行い会話をしながら食事を楽しんでいる。バーベキューやそ うめん流しなど行い食事を楽しめるよう支援している (外部評価) 昼食前には口腔体操を行っている。昨年から、昼食は、法人 で作成した献立に沿って作っており、朝・夕食は、利用者の 希望を聞きながら決めている。食材は配達を利用しており、 利用者も一緒に仕分け等を行っている。又、テーブル拭きや 食器洗いを行う利用者もいる。職員も一緒に同じものを食べ ながら、利用者と味付け等について話をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 10時15時にはおやつ時間を設けている。栄養摂取状況 においては個人ファイルに摂取量を記入している。水分 チェックも行なっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯みがき等の声かけを行い、職員が見守り、必要 時介助を行なっている。就前に義歯をはずしポリドントにて 洗浄を行なっている。食事前にも出来るだけうがい等行なっ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			それぞれの残存能力や状態を考慮しながら、オムツに頼ってしまわないようできるだけトイレでの排泄を促している。トイレの訴えのない利用者にも、時間を見計らって誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			入居間もない利用者のために、トイレの入口には、アヒルの絵の目印をつけ、トイレと書いて表示していた。現在、紙おむつを使用する利用者について、紙パンツ着用に変更して職員2名で介助し、トイレで排泄できるよう支援している事例がある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			その日の利用者の希望や、体調を考慮し入浴を行なっている。一人一人の要望、状態、タイミング、湯の温度、入浴剤等好みに合わせて、気持ちよく入浴を楽しんでいただいている。(夜間帯はスタッフ不足のため出来ていない。曜日は関係なく2～3日に1回、必要時連日も可)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			週2～3回、午前中に入浴できるよう支援している。中には、毎日入浴の希望があり、支援しているケースもある。入浴前には、着替えやタオルの準備を一緒に行ったり、好みの湯温に調節して支援しており、入浴中に歌を歌う利用者には、手拍子をして気持ちよく入浴できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアルを作成している。誤飲、飲み忘れなどないように、服薬する際には必ず最低3回の確認をしている。特に処変時等は状態の変化の確認、記録、報告に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 強制や負担にならないよう、本人の気持ちを重視して対応するよう努めている。一人一人の楽しみ事など話をお聞きしできるだけ添えるよう支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望や必要、天候や状況に応じ、季節や外気を肌で感じていただけるように、野菜の収穫、日光浴、花や夕陽を見る、風に当たる、散歩、ドライブ、買い物等支援している。お墓参り、薔薇園、道の駅、県外の兄弟宅等関係者の協力を得て外出している。夢プラン作成中 (外部評価) 年2回は、利用者全員で花見等に出かけている。天気や利用者の体調をみながら希望を聞き、個別にドライブ、買い物、散歩等に出かけられるよう支援している。重度の利用者については、家族に相談して調子の良い日に、刻み食の弁当を持って、海岸や道の駅に出かけた事例がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在はほとんどの方が事務所で職員が管理している。数千円自己管理されている方もおられる	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望や必要に応じて電話をしたり手紙を書いたりしていただいている。家族との関係がよりよいものとなるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関やリビングなどは季節感を感じていただけるよう花などを飾っている。日勤帯・夜勤帯で掃除を分担、汚れたらその都度こまめに掃除し、清潔で快適に生活していただけるよう努めている。冷暖房、照明、消臭、換気等、工夫調整している。	
			(外部評価) 利用者同士の人間関係や希望、車いすの通行しやすさ等を踏まえて、居間のテーブル席を決めている。まぶしさを感じる利用者のため、午後からは南向きの窓のカーテンを閉めていた。野球が得意な利用者は、職員を相手にキャッチボールを楽しんでいた。昼食後、利用者は、居室で一休みしてから個々に居間に出て来て、テレビを見たり職員と世間話をしたりする様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関にベンチ、リビングにソファなどくつろげる空間を作っている。花や写真、置物、本などを置き、居心地のよい空間作りに努めている。また車椅子も動きやすいよう、家具等の配置を考慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 出来る限り本人の好みや馴染みのものを持ってきていただき、居心地よく過ごせるように努めている。また、家族の写真や陶芸や書道等の自作の物を飾っている。	
			(外部評価) 花が好きな方には、家族が欠かさず生花を飾ってくれている。動物好きの方には、動物のカレンダーやポスターを掲示していた。自宅と同じように人形を抱いて寝る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各々、出来ること出来ないことを随時見極め、状況にあわせて環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた場合、その都度職員と話し合い、不安や迷いを取り除き安全で安心して出来るだけ自立した暮らしが出来るよう努めている。	